

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571700527		
法人名	医療法人 吉誠会		
事業所名	グループホーム菜の花	ユニット名	1号館
所在地	宮崎県都城市高城町穂満坊496-3		
自己評価作成日	平成28年5月30日	評価結果市町村受理日	平成28年8月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokansaku.jp/45/index_nhp?action_kouhyou_detail_2015_022_kanitrue&lievosvoCd=4571700527-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成28年7月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者が楽しく過ごせるように、一人ひとりに気を配って声かけをし、ゆとりあるケアに取り組んでいる。季節感を感じてもらえるように外出訓練を取り入れ、誕生会等の行事を計画し、利用者や家族に安心して頂けるよう生活支援をしている。地域の方とは施設の行事等に参加して頂いたり、職員が地域の行事に参加して交流を深めている。併設したクリニックと医療連携を取っている事で、医療が必要になった時には迅速な対応が行える。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の表情は穏やかで、職員も慌ただしさがなく、のんびりとした雰囲気のあるホームである。1年を通して四季を感じながら生活できるよう、玄関やホール内の装飾や菜園での野菜の育成・収穫・調理を一緒に行っている。いつでも安心して医療が受けられるよう、クリニックとの連携もなされている。職員はケアのあり方や支援の方法を、介護を受ける側の気持ちになって考えながら実践している。また、様々な研修に参加し、復命することで、互いに学び、介護技術・知識の向上に努めると共に、専門職としてのスキルアップへとつなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について理解し、理念を基本とした支援に取り組んでいる。業務会議を通じて、理念に沿った支援の方法や評価を話し合っている。		年に2回、理念の見直しを行い、全職員で共有し、実践につなげている。しかし、一つの理念を2ユニットで共有しており、また、数年間変わらないものとなっている。	それぞれの職員が思いを抽出し、ユニットごとに理念の作成を行い、特色を生かしたケアを実践することを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間行事や推進会議に参加して頂き、地域の方との交流を図っている。		職員は地区の除草作業に参加したり、祭りの協賛・参加等、地域との交流を図っている。法人の関係事業所が開催する行事に地域の方と参加したり、中学校からはお便りや新聞が届くなど、行き来する関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事等で施設にみえられた際に、施設の見学や認知症の方の対応方法の説明を行ったり、施設紹介を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回行われており、地域代表者の参加もある。ホームの活動や運営についての報告もなされている。		運営推進会議には、行政や自治会・家族代表の参加があり、ホームの活動状況や研修の報告を行い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。ホームと地域等の行事を互いに案内することで、交流の機会を増やすきっかけとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	問題点や相談があった場合はその都度連絡し、相談に乗ってもらい、アドバイスを頂いている。		市の職員が運営推進会議に参加しており、防災対策やインフルエンザなどの感染対応について相談したり、意見を聞いたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	時間を決めて開放している。朝の掃除の時から夕方(9~17)までは、換気目的や入居者の散歩の出入り口の為、玄関や居室の施錠をしないケアをしている。		身体拘束の弊害ややむを得ない場合の対応などについて、研修に参加し、業務会議での報告や勉強会で全職員に周知している。玄関の施錠は夜間以外は行わず、いつでも出入りできるようになっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止講習会や研修に参加している。高齢者虐待の基本など、実際に起こった事例や予防について学び、スピーチロック(言葉による抑制)など、現場での予防に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中に後見人制度を活用している方がおられ、研修の機会がある時には参加している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居や退居が必要な本人の家族に対し、十分に説明し、同意を得、納得した上で署名・捺印を頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設けたり、運営推進会議や面会に來られた時に家族に意見を頂き、それらを職員間で意見交換し、運営に反映している。		家族が来訪した時に日頃の様子を伝え、話の中で意見などを聞いている。メッセージボードで、伝えたいことや担当者会議の予定などがわかるようになっており、意見や要望を話すきっかけになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回業務会議を開き、意見や提案を聞いている。		業務会議を月1回開き、施設長や管理者が職員からの意見や提案を聞き、汚物処理場の改善や玄関のひさし設置など、運営に関する意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1ヶ月に1回業務会議を行い、意見や提案を聞いている。個人評価・企業評価・面談を行い、職員個々の評価に対して、キャリアアップができるようにしている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で研修がある時には職員に受ける機会をもち、働きながら職員同士でケアについて意見交換をもちながらすすめている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会研修やグループホーム地域ケア会議に参加し、交流・意見交換の場を通じて、サービス向上に取り組んでいる。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントの時に本人さんの思っていることに耳を傾け、コミュニケーションをとることで、関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談・カンファレンス・面会時に家族が思っていることに耳を傾けながら、関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の意向を聞き、観察し、何が必要かの対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人さんと一緒に食事や体操レクリエーションを共にする関係を築いている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族に面会時や手紙などで本人さんの生活状況を伝え、情報を共有することで関係を築いている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	苑に遊びに来られた時にはお茶を飲みながら談話して頂いたり、馴染みの人に電話で話ができるようにしている。	なじみの関係が途切れないよう、友人や知人の来訪時にはお茶を出したり、場所を提供するなど、支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操・レクリエーション・食事などを一緒にして、関わり合いができるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援に努め、変わりがあったら家族に連絡するようにしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりとコミュニケーションを図ることで、希望などの把握に努めている。		日常的な会話の中から、また、一人ひとりの表情や行動・職員同士の気づきから、思いや意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの暮らし方など把握したうえで、声かけや会話などに努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり意見を聞いたり、体調をききながら、現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	問題が生じた場合、ユニットごとのミーティングや業務会議にて話し合い、改善策を立てている。		ホームでの暮らし方について、本人・家族から意見や要望を聞き、介護計画書を作成している。モニタリングを毎月行い、状況に応じて適切に見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に時間単位で記入し、変化があればミーティングにて情報共有を行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各個人に合ったサービス提供を行う為、型にとらわれず、臨機応変な対応を行うようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	高齢者クラブの方が行事等に来られ、一緒に参加されたり、会話して頂く。理容・毛染めは近隣の美容室に訪問して頂いている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医で受診・診察をし、適切な医療が受けられるように支援している。クリニックにない診療科については、Dr. より紹介して頂き受診している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者との関わりの中でとらえた情報や気づきを医療連携Nsに伝え、相談し、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の看護師長や医療連携Nsを通じて、情報交換や相談に努めており、スタッフも病室に顔を見に行くようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より現病状を説明して頂き、治療方針を共有し、支援に取り組んでいる。		重度化や看取りについて、契約時に意向を確認し、指針について説明し、同意をもらっている。法人の病院が近くにあるため、看取りを希望していても搬送されることが多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の場で応急手当や初期対応について看護師から指導を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、防災訓練を行い、利用者が避難できる方法や消防への連絡方法を全職員が身につけると共に、連絡網を回し、地域との協力体制を築いている。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりにあった言葉遣い(方言や敬語)を使い分けて、コミュニケーションをとっている。		トイレの声掛けや入浴時はプライバシーに配慮し、耳元で話しかけたり、見えない工夫をしている。利用者一人ひとりに対して、尊重した言葉かけを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションの内容やおやつ、衣類など、最終的な決定をゆだねている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調に合わせ、レクリエーションの内容や外への散歩を行ったり、居室で休まれるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る洋服や羽織物は、本人にどれがいいかを聞くようにしている。髭剃り・髪ときも定期的に行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフも一緒に食事をし、コミュニケーションをとっている。おやつ作りや野菜の皮むき(簡単なもの)などの手伝いも一緒にされる事がある。		食事は法人の施設から運ばれてくるが、朝夕の汁ものと小鉢はホームで調理している。菜園で育った野菜と一緒に収穫し、調理法や味付けを考え、一緒に食べている。食事の準備や後片付けを手伝う利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分をとらない人には黒砂糖茶などを入れ、甘くして飲みやすいようにしている。また、トロミをいれ、食べる形にする事もある。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄はスタッフで行う。うがいができない方はお茶を利用して、歯が少しでも残っている方は歯ブラシで磨いてもらう。確認して磨き残しの部分を介助し、義歯を外してうがいをしてもらい、口腔内をキレイにしている。義歯のない方は口腔ケア用ウェットティッシュを利用している。義歯は1週間に1回は入れ歯洗浄剤につけ洗浄している。			

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛け・誘導を行うが、トイレでの排泄を促す為、個々に合わせたスパンでのケアを行う。		トイレでの排せつを支援し、排せつチェック表の活用、排せつのサインを見逃さないようにすることで、一人ひとりにあった誘導を行い、失禁を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に合わせた下剤使用を行うが、自然排便を促す為、食物繊維のある食べ物の提供や腹部温罨・腹圧を行う。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の順番や湯の温度、季節に合った入浴剤を使用し、入浴の楽しみにつなげている。保湿剤・ローションを使用し、乾燥を防止。		入浴は1日おきに行っているが、希望があればいつでも入浴できるよう支援している。冬季は脱衣室の温度調整を行い、入浴が楽しめるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節に応じて個人ごとの温度調節を行っている。夜間帯は、トイレで起きた際、転倒ないように豆電球を付けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬に間違いがないかの確認とご本人への手渡し・内服の確認、自立摂取出来ない方の介助を行い、症状の把握に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの作品制作、日々のレクリエーション散歩や行事参加、外出などで気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご自宅や思い出の場所への外出を、ご家族に協力してもらい、連れて行ってもらう。季節ごとの行事見学にて外出し、季節を肌で感じたり、気分転換につなげている。		墓参りや買い物などは家族の協力を得て支援している。花見や祭りごとなどへの外出は、全利用者が参加している。日常的には外出が少なく、屋内で過ごす日がほとんどである。	生き生きとした暮らしになるよう、日々の生活の中で、日常的に行う散歩や買い物・園芸などを、一人ひとりの希望に沿って支援することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	1号館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金はホーム長が預かっている。本人より「何が欲しい」と言われる事もあり、こちらが購入するようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠くにいる方に限るが、本人から申し出てくる方もいます。月1で出すお便りに手紙を入れるようにしています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(テーブル・トイレ)に季節の花を飾り、生活感を感じてもらっている。	居間はふき抜けになっており、明るく開放感がある。玄関や壁には写真や季節感のある飾り付けがなされており、適度な位置に椅子を置き、好きな場所ですごせるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになれる場はないが、ホール内にソファを3つ設置し、入居者たちが好きな所で過ごせるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が大切にしている物や写真などをタンスの上に置いたりし、落ち着ける空間にしている。	利用者の身体機能・安全性を考慮し、ベッドの種類や高さの調整をしている。整理整頓がなされ、気持ち良く過ごせるよう配慮している。混乱やケガを防ぐため、私物の少ない居室もあるが、大切にしている小物や家族の写真を飾るなど、自分らしさを生かした居室もある。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが安全に自立した生活が送れるように障害物を取り除き、安全な環境づくりに努めている。			